

日本応用経済学会ニューズレター

Japan Association for Applied Economics Newsletter

第13号 2022年1月

日本応用経済学会事務局：〒819-0395 福岡市西区元岡 九州大学経済学部

TEL/FAX：080(5321)7299

E-mail: jaae@jaae.org

<http://www.jaae.org/>

目次

会長挨拶

理事会報告

学会誌編集委員会

学会賞選考委員会

国際交流委員会

2022 年度春季大会のご案内

事務局だより

2020 年度決算資料

2021 年度予算資料

I. 会長挨拶

日本応用経済学会
会長 焼田 党

2021年も「新型コロナウイルス感染症」で明けてもうすぐ「新型コロナウイルス感染症」で暮れようとしています。大学でも日常の生活と同様に大きな影響を受けました。学会も、続けてオンライン開催となり、集まって面と向かって議論をすることができませんでした。

学会の研究報告の数も心なしか例年に比べて少なかったように思います。個人的にも、それだけが楽しみというわけではありませんが、春の京都にも秋の北海道にも行けず、残念でした。それぞれの大学において、対面開催ということでご準備いただきながら、申し訳なく感じています。他方で、事務局、総務などご関係の方々には、オンライン開催ということで違うお世話を頂くことになりこれも感謝しています。

本年度は細江先生からのご提案で、先の学会で青木先生にお世話をいただいて開催されました新型コロナウイルス感染症についてのシンポジウムに関わって、『新型コロナウイルス感染の政策課題と分析－応用経済学からのアプローチ』を日本評論社から出版して頂きました。ご投稿いただいたご研究が素晴らしい書物となったことは喜ばしいことです。

今年度もオンライン開催に伴って会員の皆様へのサービスが縮小しているかと思しますので、学会として何かできることはないかと考えて頂いているところです。

話は変わりますが、機関誌『応用経済学研究』への投稿数が想定されているよりも少ないようです。ぜひ皆様のご投稿をお願いしたいと思います。現在、掲載論文のオンライン公開の方向で検討を進めています。各大学でも大学紀要のオンライン化も進んでいるようではありますが、学会誌としてのポジションは少し異なると思いますので、公開

度が上がることは望ましいと考えています。

新しい年が皆様と学会にとって大きな飛躍の年となりますように、また、新型コロナウイルス感染症の影響が小さくなりますように、今後ともよろしくお願ひ致します。

II. 2020 年度理事会報告

2020年度第4回理事会報告

日時：11月21日（土） 11時00分～12時00分

会議形式：Zoom 使用によるオンライン会議

出席者：焼田、藪田、長岡、木原、福重、坂上、永星、大川、大内田、渡邊、青木、福澤、柳瀬、伊ヶ崎、内藤、土居、小川、堀、成生、中村（保）、中村（大）、田中、瀧井、三浦、藤田、野崎 以上、26名

司会の藪田常務理事から開会の挨拶があり、議事に移った。

議題

1. 新入会員・退会員承認

事務局から資料1に基づき説明が行われ、新入会委員と退会が承認された。

2. 編集委員長等の改選について

藪田常務理事より委員長について説明が行われ、会長と相談しながら決めることが承認された。

3. 編集委員会報告

小川編集委員会委員長より編集進捗状況について資料2-1に基づき報告が行われ、承認された。続いて、資料2-2に基づき、応用経済学研究に掲載する論文について提案があった。内容の詳細については継続審議となった。

応用経済学研究の投稿料、掲載料について、投

稿料6000円、掲載料10000円の徴収の廃止が提案され、審議の結果承認され、次回、総会の審議事項としてあげることが承認された。

4. コロナ企画出版について

藪田常務理事より資料3-1に基づいて、企画出版に対する費用の支出について提案された、また資料3-2に基づいて、投稿者について説明され、今後、投稿された論文査読の手順、採択について説明が行われた。これらの提案について了承された。

5. 国際交流の件（実績報告）

中村（保）国際交流委員会委員長より、資料4に基づき、国際交流の実績について報告された。KAAEの月例セミナーが開催され、中村委員長の参加が報告された。

6. 2020年度学会賞選考スケジュール（案）

長岡委員長より資料5に基づき、2020年度の学会賞選考スケジュールの説明が行われた。

7. 来年度春季大会プログラム委員長について

藪田常務理事から次年度春季大会のプログラム委員長に今後、選定することが説明され、承認された。

8. その他

なし。

報告

1. その他

日本美術教育学会から略称の利用についての相談があったが、結果として、日本美術教育学会から略称を別のものとする旨で対応するとの連絡があったことが事務局より連絡があった。

III-1. 2021 年度 第1回理事会報告

2021年度第1回理事会は新型コロナウイルスによる感染症拡大防止措置により、持ち回り開催・メール審議にて行われました。

2021年度 第1回理事会

審議期間：令和3年4月15日（木）～4月25日

（日）午後1時

方法：持ち回り開催・メール審議

議題

1. 2021 年度春季大会（開催校：同志社大学）の通常開催を、オンライン開催とすること、ならびにその実施の大枠に関する事項

以上について審議され、承認された。

III-2. 2021年度第2回理事会報告

2021年度 第2回理事会

日時：令和3年6月26日 10時30分～12時00分

会議形式：Zoom使用によるオンライン会議

出席者：焼田、藪田、長岡、福重、坂上、永星、木原、田中、成生、渡邊、三浦、大森、福澤、小川、内藤、瀧本、大内田、中山、土居、石川、中村（大）、野崎、森田（監事）、野原（秋季大会実行委員長）、池下（事務局） 以上、25名

司会の藪田常務理事より開会の挨拶、その後、開催校の内藤徹先生より挨拶が行われ、審議に移った。

議題

1. 新入会員・シニア会員、退会会員承認

資料1に基づき、事務局から新入会員、シニア会員、退会についての説明が行われ、承認された。

2. 2020年度会計報告

永星常務理事（財務担当）から、資料2に基づき令和2年度の会計報告が行われ、続いて森田監事より会計監査報告が行われ、承認された。

3. 2021年度予算（案）

永星常務理事（財務担当）から、資料3に基づき、予算（案）について説明が行われ、承認された。

4. 編集委員会報告

福重編集委員長から、編集委員会体制について説明がされ、副編集委員長に大住康之氏（兵庫県立大学）、大内田康徳氏（広島大学）が就任したことが報告された。次に資料4に基づき、編集の進捗について、現在、4本採択されていることが説明された。

5. 学会賞選考委員会報告

長岡学会賞選考委員長より、審査の結果、学会賞に安達貴教氏（京都大学）、奨励賞に松山博幸氏（価値総合研究所）に授賞することが提案され、承認された。

6. 国際交流委員会報告

中村（保）委員長欠席のため、事務局から資料6に基づき、国際交流の実績について報告された。

7. 投稿規程の改正について

令和2年度第4回理事会で承認された投稿料、掲載料の廃止について資料7-1に基づき、投稿規程の改訂案について説明が行われた、改正された規程の適用時期について、審議され、総会承認後以降の投稿分、ならびに採択された分について適用されることになった。

8. 学会誌（『応用経済学研究』）の件について

8-1 査読の運用関係（デスクリジェクトについて）

今後はデスクリジェクトも行うことになった。

8-2 学会誌のWEB掲載について

焼田会長から、研究内容を学会員以外にも広く知ってもらうには有益と考えられるため、今後、学会誌のオンライン化の提案が行われた。審議の結果、学会誌のweb化の実行について承認された。

8-3 電子化ジャーナル化について

焼田会長より電子化作業については事務局で実施したい旨が提案され、作業に伴う費用の支出も含め、承認された。

報告事項

1. 2021年度秋季大会について

開催校の北星学園大学の野原克仁氏から挨拶が行われた。

2. コロナ関連出版の状況説明

事務局より資料9に基づいて、執筆者とタイトル、日本評論社から出版されることについて報告が行われた、また、新型コロナウイルスの影響により、出版時期が7月に遅れていることが報告された。

3. 西日本支部会の報告

令和3年3月20日にオンラインで開催されたことが事務局より報告された。

III-3. 2021年度第3回理事会報告

第3回理事会は新型コロナウイルスによる感染症かくだい防止措置により、持ち回り開催・メール審議にて行われました。

2021年度 第3回理事会

審議期間：令和3年9月8日（水）～9月13日
（月）午後1時

方法：持ち回り開催・メール審議

議題

2021年度秋季大会（開催校：北星学園大学）の通常開催を、オンライン開催とすること、ならびにその実施の大枠に関する事項

以上について、了承され、2021年度秋季大会はオンライン開催となった。

VI. 「応用経済学研究」編集委員会報告

『応用経済学研究』編集委員会報告

編集委員会委員長
福重元嗣（大阪大学）

2019年12月以降の投稿論文は、13本ありました。次号（15号）への採択論文は、継続審査中であつた論文が採択されたものを含め8本、再投稿依頼中の論文が2本（不採択の論文は4本）です。

2021年5月11日以後の論文の投稿が無く、次号は例年より多めの論文を掲載できるが、16号以降の刊行については、掲載論文数の減少が懸念される。論文の投稿を、皆様より推奨していただくことを期待します。

V. 2020年度学会賞について

2020年度学会賞について

学会賞選考委員長
長岡貞男（東京経済大学）

学会賞 安達貴教氏(京都大学)

(受賞理由)

安達貴教氏は、二面市場、価格差別など産業組織の分野、更に公共経済学等の分野で、独自性の

高い研究を精力的に行い、その成果はEuropean Economic Review, Economica, Journal of Law, Economics, and Organization, Small Business Economicsなどの査読付き国際学術誌にも多数掲載されている。さらに、同氏は2019年度の春季大会（於南山大学）において、海外からの研究者を招いた英語セッション“Recent Advances in the Theory of Two-Sided Platforms”を企画するなど、本学会への貢献も大きい。

学術論文賞 該当者無し

奨励賞 松山博幸氏（価値総合研究所）
(受賞理由)

奨励賞の選考対象となった業績は、論文「審査のゆがみ 全日本吹奏楽コンクールを例に」(応用経済学研究第14巻に掲載)である。本論文は、全日本吹奏楽コンクールの審査に意図せざるバイアスが存在しているか否かを実証的に検証している。その結果、早く演奏した方が不利になるバイアスと一つ前の演奏の評価から正の影響を受けるバイアスが、いずれも存在していることを示している。演奏順序のランダムネスの確保など、データ構築と計量経済分析に注意深い設計を行っており、今後の研究を奨励するに値する研究成果だと判断される。

著作賞 該当者無し

IV. 国際交流委員会

国際交流委員会報告

国際交流委員会委員長
中村保（神戸大学）

1. 韓国経済通商学会(KEBA)秋季大会への派遣
2020年11月27日(金)に予定されていた韓国経済通商学会(KEBA)秋季大会は、新型コロナウイルス

ルス感染症拡大により、同年12月28日(月)に延期され、Zoomによるオンラインで開催され、2名の会員が参加いたしました。

2. 韓国応用経済学会(KAAE)年次大会への参加

2021年4月16日に韓国応用経済学会(KAAE)の年次大会がZoomによるオンラインで開催され、本会から4名の会員が参加いたしました。

3. 韓国経済通商学会(KEBA)から春季大会への招聘

2021年度のJAAE春季大会はオンライン開催となったため、韓国経済通商学会(KEBA)から2名の方がオンラインでの参加となりました。

の情勢は続きそうです。

昨年度、このコロナ禍に対する学会からの社会への提言として、「『新型コロナ感染の政策課題と分析応用経済学からのアプローチ』」の出版企画を行い、2021年7月に出版されました。ご執筆頂きました皆様には厚く御礼申し上げます。

最後になりましたが、事務局の不手際により、今年度のニューズレターの発行が大変遅れてしまいましたことをお詫び申し上げます。今後はこのようなことが無いように気持ちを引き締めて参ります。

会員の皆様には引き続き、宜しく願ひいたします。

(事務局担当 野崎竜太郎(久留米大学))

VII. 2022年度春季大会について

2022年度(令和4年度)春季大会は、令和4年6月25日(土)、26日(日)の2日間にわたり、熊本大学にて開催することになりました。報告申込締切は令和4年4月9日(土)となっております。皆様の奮っての応募をお待ちしております。

詳細については学会Webサイトをご覧ください。

VIII. 学会誌『Studies in Applied Economics 応用経済学研究』への投稿について

編集委員会報告にもありましたように、会員の皆様からの学会誌の投稿をお待ちしております。投稿は随時可能です。投稿規程等については学会Webサイトにてご確認ください。

IX. 事務局便り

新型コロナウイルス禍が長引いております。学会も2年間にわたり、オンラインによる開催が続く、対面での学术交流ができない状態が続いております。早い収束を願うばかりですが、まだ、こ

令和2年度 日本応用経済学会 会計報告
(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

1. 収入の部

項目	予算額(a)	決算額(b)	差額(b)-(a)
繰越金	5,054,086	5,054,086	0
会費収入	4,025,000	4,099,000	74,000
学会誌収入	120,000	110,000	-10,000
利子収入		1	1
(収入小計)	4,145,000	4,209,001	64,001
合計	9,199,086	9,263,087	64,001

現金・預金残高

令和2年度期首	小計
ゆうちょ事務センター	4,670,905
ゆうちょ口座	18,174
福岡銀行	365,007
現金	0
期首繰越額	5,054,086

令和2年度期末	小計
ゆうちょ事務センター	6,650,430
ゆうちょ口座	168,174
福岡銀行	175,008
現金	59,344
期末繰越	7,052,956

2. 支出の部

項目	予算額(a)	決算額(b)	差額(a)-(b)
通信費	180,000	142,357	37,643
消耗品費	60,000	46,970	13,030
事務補助費	600,000	155,020	444,980
学会開催補助費	800,000	55,990	744,010
理事会開催補助費	105,000	0	105,000
各種委員会開催費	50,000	0	50,000
シホジウム等補助金	130,000	60,000	70,000
学会賞	90,000	68,475	21,525
国際交流費	300,000	0	300,000
払込手数料	75,000	68,582	6,418
学会誌購入	1,750,000	1,584,000	166,000
学会webサイト運営費	35,000	28,737	6,263
雑費	20,000	0	20,000
予備費			
小計	4,195,000	2,210,131	1,984,869
繰越金	5,004,086	7,052,956	-2,048,870
合計	9,199,086	9,263,087	

上記の通り報告致します。

常務理事(財務担当)

永星 浩一

会計担当幹事

池下 研一郎

会計担当幹事

野崎 竜太郎

監査の結果、上記相違ありません。

監 事

森田 充



令和3年度 日本応用経済学会 予算

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

1. 収入の部

項目	予算額	備考
繰越金	7,052,956	
会費収入	4,030,000	(10,000円×390人)+(5,000円×26人)
学会誌収入	60,000	掲載料10,000円×6人
利子収入	1	
(R2収入小計)	4,090,001	
合計	11,142,957	

2. 支出の部

項目	予算額	
通信費	180,000	
消耗品費	60,000	
事務補助費	600,000	
学会開催補助費	500,000	400,000円×1回+オンライン大会×1回
理事会開催補助費	52,500	52,500円×1回
各種委員会開催費	50,000	
シホ°ジム等補助金	130,000	
学会賞	90,000	
国際交流費	150,000	2人2泊宿泊費(秋季大会1回分)
払込手数料	75,000	
学会誌購入	2,000,000	
学会webサイト運営費	30,000	
雑費	20,000	
出版助成	500,000	
小計	4,437,500	
予備費	6,705,457	次期への繰越金予想
繰越金		
合計	11,142,957	